

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471903052
法人名	有限会社Cocci
事業所名	グループホーム ちゃばしら
訪問調査日	2018年12月7日
評価確定日	2019年3月1日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903052	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	有限会社Cocci		
事業所名	グループホーム ちゃばしら		
所在地	(238-0043) 神奈川県横須賀市坂本町5-5-18		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	7名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成30年11月12日	評価結果 市町村受理日	平成31年3月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が利用者の身体の残存能力維持、認知症の進行緩和を意識し、リハビリを目的としたレクレーション、また、家事等の生活リハビリを日常生活の中で行っている。気候が良い時は健康保持、体力増進の為に戸外への散歩、または敷地周辺での外気浴をするよう心がけている。また、地域の一員として、地域のお花見会や夏のお祭り、町内会主催の日帰りバスツアー等各種イベントに参加をする等、地域交流に積極的に取り組んでいる。開所以来、職員の定着率が高い。現在勤務している職員の内、勤続年数5年以上の者が全体の9割を占めている。ここ数年代表者が「介護労働安定センター」「かなふく」主催の各種研修等に定期的に参加をし、安定した事業運営、職場環境づくりに努めている。また、今年度より、 <u>利用者の安全面確保と、介護職員の腰部への負担軽減の為に、浴室にバスリフトを導入した。</u> 1ユニット、定員7名の小規模ホームで、毎日和気藹々と過ごしながらも、目の行き届いた介護を実践している。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成30年12月7日	評価機関 評価決定日	平成31年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>●この事業所は、有限会社Cocciの経営です。同法人は横須賀市内でグループホームを経営しています。法人の名前になっている「Cocci」はイタリア語で「てんとう虫」を意味し、古来より幸せを呼び込む虫としても人々にも馴染みがあります。代表兼管理者は『利用者が住み慣れた地域で、残された能力を維持し、家庭的な環境で安心して暮らせるように』との思いで、この事業所を開所しました。事業所の定員は7名と少人数の家庭的なグループホームですが、ここ数年は、看取りや特別養護老人ホームに入所等で利用者の入れ替わりもあり、現在は6名の利用者が職員と共に、和気あいあいとした雰囲気の下に家庭的な生活が営まれています。立地は京浜急行「汐入駅」からバスで10分「坂本」停留所下車して、徒歩3分程の道路に面した通りに位置し、外観は緑と白を基調とした建物です。</p> <p>●事業所の理念に「地域に根差したホームにする」と掲げており、地元の坂本5丁目町内会に加入し、地域のお祭りや、町内会主催の「日帰りバスツアー」にも参加する等、事業所が地域の中の1つの家として、地域の方々にも受け入れられ、積極的に地域との交流を図っています。また、日常的に近隣の店舗を利用することで、利用者と職員の顔を覚えて頂き、地域の中で暮らしているという実感を得られるよう、地域との交流に注力して取り組んでいます。</p> <p>●代表兼管理者は、職員のキャリアアップの為、横須賀グループホーム連絡協議会(現在33事業所が参加)等の外部研修に、積極的に職員の参加を促し、帰所後に会議で内容をフィードバックし、情報の共有を図っています。また、内部の研修計画を策定して進め、サービスの質の向上に取り組んでいます。利用者の重度化が進む中、家族の負担を考慮し医療連携加算や看取り加算を取らず、心のこもった介護に取り組んでいます。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ちゃばしら
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	○ 2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざしたホームにする、という理念の下、地域主催のお花見会やお祭り、日帰りバスツアーにする等、積極的に地域交流をしている。	事業所の理念「地域に根ざしたホーム」の下、5項目からなる理念を作成し、玄関に掲示しています。町内会の行事への参加や、日常的に近隣の店舗を利用することで、利用者や職員の顔を覚えて頂き、地域の中で暮らしているという実感を得られるよう、地域との交流に注力して取り組み、理念の実践に繋げています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域行事への参加などを積極的に行っている。また、日常の散歩等を通じて地域の方との交流を図っている。地域の方が広告のゴミ入れを作ってホームに届けて下さる。徘徊する可能性のある利用者については、民生委員さんを中心に、付近の商店、交番等に、一人で徘徊しているところを発見した時等はホームに連絡、場合によっては保護の依頼等をお願いしている。	坂本5丁目町内会に加入し、地域のお祭りや、町内会主催の「日帰りバスツアー」にも参加する等、事業所が地域の中の1つの家として、地域の方々にも受け入れられ、積極的に地域との交流を図っています。町内会の組長当番時には、積極的に対応しています。また、日常的に商店を利用し、顔を覚えてもらうことで、万が一の際に保護の依頼等をお願いしています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して頂いている、民生委員さんを通して、認知症介護等について発信している。また、市内有志のグループホームが開催している認知症介護よろず相談所等についての情報提供をしている。	/		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内に於いて、利用者やホームの近況報告を行っている。本年度からは身体的拘束等の適正化の為の対策検討委員会の一部として運営推進会議を利用し、情報提供をすると共に、そこで出た意見等についてはサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に、民生委員2名、家族、管理者、時により、主任、ケアマネ、職員等の参加で開催しています。横須賀市の職員は、年1回の参加があります。事業所の状況報告や法改正の説明、地域行事の情報等を議題として、これらに対する意見やアドバイスはサービスの向上に活かしています。また、身体的拘束等の適正化の為の対策検討委員会を、3ヶ月毎に実施しており、運営推進会議を利用して情報提供やQ&Aも実施しています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは報告・連絡・相談を密にしている。また、年に1回、運営推進会議への出席を依頼している。	市町村担当者は、運営推進会議に年1回の参加があり、報告や連絡等は日頃より密に取り合っています。また、横須賀市のグループホーム連絡協議会の研修、感染症・虐待等の市の研修会にも積極的に職員の参加を促し、質の向上に取り組んでいます。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の心身の状態の安定を図る為にも、身体的拘束等を行わないという理念の下、日常のケアにあたっている。玄関戸は施錠せず、自由に入出入り可能にしてある（夏期は玄関の戸を開放したままにしている）。3月に1回身体的拘束等の適正化のための対策検討委員会を事業所内で開催している。	身体拘束は運営規定に明記し、身体拘束を行わないという理念の下、日常のケアに努めています。日頃から、何が拘束に繋がるかの話し合いを行い、職員間で情報共有しています。身体拘束に関する委員会は3ヵ月毎に実施しています。日常的に玄関の施錠は行っていないため、1人で外出する利用者対策として、地域の方々に声掛けし、見かけた際には事業所に連絡してもらおう等、協力をお願いしています。日中は、玄関の施錠は行っていませんが、玄関の施錠については常に話し合いの場を設けています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理職が高齢者虐待の外部研修に参加（行政主催のもの等、年3回以上参加）した後、事業所内研修もしくは情報開示等を行っている。また、高齢者虐待について自己チェックを実施し、自身の介護について見つめ直している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理職が毎年1回権利擁護の研修に参加し、それを元に、事業所内研修もしくは情報開示を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時には十分な説明を行っているが、不明な点があった場合はいつでも連絡が取れるような体制を整備している。相談窓口は随時相談可能である。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族からの意見、要望に関しては積極的に受け入れ、可能な限り事業所の運営に反映させている。月に一度ご家族に利用者、もしくはホームの近況を報告する書類を送付している。	利用者・家族からの意見や要望は、積極的に受け入れています。ケアプランの更新時には、事前に「要望書」を家族に提供し、家族からのリハビリを望む声や、外になるべく出かけてほしいなどの意見があれば、ケアプランに盛り込み、可能な限り実現に向けて反映しています。また、月次の請求書と共に、利用者一人ひとりの近況を主任が書き、日頃の生活の様子を伝えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームをよりよくする為に、職員からの意見は可能な限り積極的に導入するよう管理職は心掛けている。管理職と職員の距離がいい意味で近く、そのことから職員の定着率が非常に高い。現在勤続年数5年以上の職員がほぼ10割である。	職員の定着率が高く、長く勤めている職員も多いことから、職員とのコミュニケーションも良好で、日頃から話し合いの場を設け、業務改善に繋がっています。職員は、事業所の実情を理解した上で、意見や工夫を出してくれるので、極力運営に反映させるようにしています。年度末以外も必要時に、個人面談の機会を設け、職員が働きやすい環境の整備に努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は介護労働安定センター、かなふく等主催の労務関係の研修に定期的に参加し、よりよい職場環境作りに必要な情報収集に努めている。また、教育訓練規定、人事考課規定等に基づき、各人の努力・実績、勤務状況等に応じた給与体系を整備する等、各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々のケアの実際と力量を把握し、各々に適した研修参加を働きかける等心掛けている。研修に参加した職員が中心となり、事業所内研修、情報開示等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎年度、グループホーム協議会主催、また他事業所主催の研修等に積極的に参加している。それらの研修に参加することで、知識、技術が向上するだけでなく、同業者同士のネットワークも確立される。代表者は協議会以外にも、市内有志のグループホームの管理者、経営者等が中心になって開催している会議にも月に1回参加をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始の段階はもちろんのこと、入居相談の時点で、本人が困っていること等の相談を受け、要望等に関しては積極的に受け入れるように心掛けることで、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者同様、サービス利用開始の段階はもちろんのこと、入居相談の時点より、困っていること、不安なこと、要望等に関する相談等に親身に対応するよう心がける等、信頼関係作りに努めている。相談窓口は基本常時対応可能になっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネがアセスメント、サービス計画表を作成するにあたり、ご家族等より情報を収集し、どのようなサービスが一人一人の利用者に必要か見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	小規模ホームであることを活かし、目の行き届いたケアを提供する中で、職員、利用者皆が家族であるような関係作りを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回利用者の状況を書面にて報告している。家族への報告・相談・連絡を密にし、必要に応じてご家族への協力を依頼することになっている。毎年夏、またはクリスマス期等に開催するイベントにご家族も招待している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族、または馴染みの人へ手紙を書く等の機会がある場合は、プライバシーに配慮し、必要に応じた支援を行っている。また馴染みの人がホームに面会に足を運びやすいように、特段面会時間を設けてはいない（面会時間については良識の範囲でというお願いはしている）また、外出・外泊は基本自由にして頂いている。	親族が定期的に面会に来ている方もあり、その際は居室で話しをしたりしています。利用者は、比較的近隣の方が多いため、面会の回数も多くあります。また、家族と墓参りに行ったり、馴染みの人と外食をしに行っている方もおり、関係が途切れないよう支援に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小規模ホームであることを活かし、皆が家族であるような関係作りを心掛けている。利用者内でも色々な人間関係等の問題もあるが、そこは職員が間に入り調整をしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も賀状を送るなどしている。また、もし退居後であっても、相談事等があった場合は、可能な限り対応するよう心がけている。			
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント等を通して、利用者一人一人の希望、意向の把握に努め、利用者本位の生活が出来るよう心掛けている。	入居前の面談で、本人と家族から過去の生活歴や暮らし方の希望等について情報を収集し、意向を把握しています。入居後は、日々の会話や、声かけ時の表情や仕草等から現在の思いや意向の把握に努めています。利用者によっては、他の利用者の前では話さない方もいるので、その場合は、ケアマネジャーが居室で話をするようにしています。一人ひとりの希望は、可能な限り実現に向けて検討し、得られた情報は、個人記録に残し、情報を共有しています。		今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを元に、利用者のそれまでの人生（生活歴）、サービス利用に至るまでの経過について把握することに努め、ホームでの生活に活かすよう心掛けている。家事が得意な方については、職員と一緒に調理も行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議、または日常の中で管理職が中心になって必要に応じて話し合い又は情報開示をし、ホーム全体で利用者一人一人の状態把握に努めている。場合により、家族等に情報提供を求めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が日々快適に過ごせるよう、ケアプラン更新時には利用者、またはご家族にサービスに対する要望書を記入してもらい、状況・希望に応じてご家族等にもサービス担当者会議に出席してもらう体制を整備している。また、必要に応じて都度面談の場を設け、出てきた意見等はケアプランに反映させ、現状に即したプランを作成し、提供するサービスの向上を図っている。	ケアマネージャ・主任が中心となって、月1回の職員会議で話し合い、利用者が日々快適に過ごせるように、意見やアイデアを出し合い、現状に即した介護計画を作成しています。更新月の2ヶ月前を目安に家族へ要望書を送り、介護計画に対する要望を記入してもらうようにしています。6ヶ月毎の更新を基本としていますが、入院時や介護度の変更等が生じた場合は、その都度対応をしています。2～3ヶ月毎にモニタリングを実施し、職員会議で検討しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや、サービス向上の為にプラスになる情報については、サービス提供記録表への記入だけでなく、職員間の連絡ノートへ記入、必要に応じて職員回覧板、または口頭での伝達等行い、皆で情報を共有、把握出来る様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者又はご家族のその時々ニーズに対応して、日課、またはサービス計画に固執せず、いい意味で柔軟、もしくは臨機応変に対応できるケアを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人一人の暮らしを支えている地域資源への把握に努め、一人一人が快適な日常を送ることが出来るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人一人が受診する医療機関については、ホームの提携医療機関に拘ってはならず、利用者本人、または家族の希望に沿った医療機関を受診するよう努めている。受診する医療機関についての説明等は、入居相談時に行っている。	かかりつけ医の受診は、事業所の提携医に拘らず、家族・利用者の希望を尊重して決めて頂いています。現在は、利用者全員が提携医療機関の内科医を主治医として、利用者によっては月2回の往診を受けています。また、メンタルクリニックは月1回の往診、歯科は通常3ヶ月毎の定期検診と必要に応じて往診があります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員はなし。訪問看護利用時には看護師との連絡を密にし、利用者の体調管理に努めた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には管理職が中心になって、面会も含め、交代で病院に脚を運び、入院中の利用者の状態把握、医療機関からの情報収集に努めると共に、退院後のホームでの対応について医療機関に伝える等、早期に退院が出来るようなアプローチをしている。また、入院時には必要に応じて医療機関にサマリー等を提出することで、医療機関により早く利用者の状態を把握してもらえよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に応じ、重度化、終末期の話をご家族としている。その際、ホームで「出来ること、出来ないこと」等について説明をし、本人・ご家族が納得した上で、希望に沿った終末期のケアをするよう努めている。	家族の負担を考慮し、看取り加算は取っていませんが、看取りまで行っています。利用者の状態の変化に応じて「ターミナル希望書」を取り交わし、その際には、事業所で出来る事・出来ない事等は説明をし、納得して頂いた上で家族の意向に沿った支援を心がけています。医師の助言も仰ぎながら、ターミナルケアに臨んでいます。家族が医療行為を望む場合は、医師と相談の上、病院を紹介することになっています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時のマニュアルを作成し、職員にはそれを周知するようしている。また救急法の研修へ参加した職員が中心になってホーム内で研修を行っている。また緊急時の対応については、職員会議だけでなく、適時職員間で確認、情報共有等をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害等の各災害に対応したマニュアルを作成している。火災訓練に関しては、防災計画にのっとり、訓練を定期的実施し、近隣の消防署に報告書を提出している。消火器、備蓄等の置き場所、防災設備の使用方法等については常に職員一人一人が確認するよう心がけている。また、運営推進会議にて地域の方に災害時の協力体制について依頼をしている。管理職が中心となり、外部の災害研修等に参加し、職員に情報開示をしている。	災害時の対応マニュアルを作成しています。防災計画に則り、年3回(年1回は消防署の参加あり)、利用者も参加して総合的な避難訓練を実施し、消防署に報告書を提出しています。また、運営推進会議でも、災害時における地域との互助体制についての話し合いも行っています。備蓄品は、3日分(米、水、缶詰等)を準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営方針で利用者への介護は同視線で、また畏敬の念を持つよう提示し、職員一人一人がそのことを念頭においてサービスを提供している。利用者への声かけは周りの状況を見ながら慎重に行うようにしている。またプライバシー保護の為に、リビング内で個人情報の話はしないよう努めている。	プライバシー保護の為に、職員同士の会話や引き継ぎ時等に、個人情報がある他の利用者の耳に入らないように配慮しています。市主催のコミュニケーション研修に、職員が毎年順番に参加しています。居室に入る際には、必ずノックをして丁寧に声掛けをしてから入室することを徹底しています。また、トイレ誘導等の声掛けについても、羞恥心に配慮した対応を徹底しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の希望を尊重し、日常生活を快適に送れるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がホームの主役という理念の元、一人一人の利用者の生活リズムを大切に一人一人の利用者本位のサービス提供を心掛けている。一人一人の希望は可能な限り尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人一人の身だしなみには気を配り、毎日皆で一緒に整髪、化粧等の整容を行う時間を設けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人が各々の能力に応じて、調理、配膳等準備、食器洗浄、食器拭き等片付けを職員と一緒にしている。食事のメニューはその都度決める為、食べたいものの希望を聞いたり、献立を一緒に考えたりもしている。	メニューはその都度決め、食材は管理者が定期的に買いに行き、利用者と一緒に調理しています。不足の物は、近くの八百屋等に行き、旬の物を取り入れるよう考慮しています。出来る方には、下膳や食器洗い等の家事を手伝ってもらうようにしています。外食については、昼食を中心にお連れしています。と敬老の日は、お寿司等の普段は食べれない食事を提供し、食事が楽しめるよう支援しています。節分や納涼祭、クリスマス等にも、特別食を提供しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重、既往症等に応じ、食事制限が必要な場合は、食事量調整を行う。また水分摂取量に於いては記録をし、状況把握に努めている。夏期には水分摂取量に十分注意をしている。水分補給補助用としてお茶またはポカリスエット等の寒天を、常時使用している。夏期はおやつをゼリー類を中心にする等心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自立出来ている利用者も最後に職員が確認をし、口腔内の清潔に努めている。定期的に提携歯科の検診を受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の意思伝達が困難な利用者、オムツ利用の利用者、または身体的に重度の利用者も定時、または必要に応じ、トイレへ誘導をし、可能な限りトイレで排泄をする支援をしている。	排泄チェック表を下に、定時または様子を見ながらトイレへ誘導を行い、トイレでの排泄に繋げるよう支援しています。重度の方でも必要に応じてトイレ誘導しています。夜間は時間を決めて声かけし、トイレへ誘導等行っています。現在、夜間のオムツ使用は1名で、他の利用者はリハビリパンツ、もしくは綿の下着で対応しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が身体に及ぼす影響については研修、又は資料提示等を行うことで、職員一人一人が理解し、飲食物の工夫、水分摂取量の把握、腹部マッサージ、また日常生活の中で運動をするなど心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	以前は一人一人が毎日入浴していた時もあったが、利用者の体力等も配慮し、現在は基本1日二人ずつ順番に入浴をしている。入浴表を作成し、順番に入浴をしているが、利用者一人一人のその時の心身の状況に応じた対応をしている。利用者の安全面確保のために、今年度よりバスリフトを導入した。	毎日お風呂は沸かしていますが、利用者の体力や体調を配慮し、基本的に3日毎の間隔で入浴支援を行っています。重度の方は、職員2人で対応しています。現在、“バスリフト”を設置しており、2名の方が利用しています。入浴拒否のある方は、時間を空けて声をかけたり、職員を変えたりしながら、入浴を促しています。菖蒲湯、ゆず湯等も行い、季節感を感じてもらえるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームとしての日中の過ごし方におおまかな流れだけ決めており、基本は一人一人のペースで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が服薬の目的、副作用等を理解し、十分に注意をして支援している。（職員会議等に於いて適時服薬の確認を行っている）薬の変更についての申し送りは、個人記録、職員連絡ノート、口頭伝達と3段階で行っており、薬変更後の利用者については十分に注意して経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人が、それぞれの残存能力、生活歴等を活かせる様なホーム内での役割を持てるように支援している。また日常を楽しく、快適に過ごせるような環境作り、支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は、戸外への散歩、または敷地周辺での外気浴を行っている。また季節ごとに車を使用して外出を行っている。利用者によっては馴染みの場所に出かけることもある。町内のお祭り等に参加をする場合は、状況により、地域の方に協力をして頂いている。	天気や気候が良い日には、近所を散歩したり、敷地周辺での外気浴を行っています。季節ごとの桜・紫陽花・ポピー等の見学は、車で出掛けています。家族と一緒に外出して、外食をして帰って来る方もいます。町内会館での催し物や坂本商友会主催のハロウィンやお祭り等の行事参加時には、地域の方に協力していただいています。また、町内会の日帰りバスツアーに参加しての外出支援も行っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人がお金を保持することについては、本人・家族の希望、意向に沿って支援するよう心がけている。入居時に説明をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は利用者が親族に手紙を書く等の支援を行っていた（現在は対象者、希望者不在）。電話に関しては利用者より希望があった場合は状況に応じてかけて頂くようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月利用者とその月々の季節感を出せる様な掲示物（カレンダー）を作成している。幼稚な雰囲気にならぬよう、開所以来ホーム内には過剰な掲示物、飾り等はしないよう努めている。「施設感」を出さず、あくまでも家庭的な雰囲気を出すよう心がけている。また、日常の掃除、換気、温度・湿度調整を徹底することで、感染症予防に努めるのはもちろん、ホーム内を快適な空間にするよう心掛けている。	リビングには季節の花を飾り、利用者と共に作成した貼り絵のカレンダーを貼る等、季節感が感じられるよう配慮しています。掃除は利用者と一緒に、加湿空気清浄機や濡れタオル等で空気や湿度にも配慮して、快適な空間になるよう心がけています。外や玄関周りの掃除をしてくれる方もおり、室内だけでなく敷地内の清掃も行き届いています。リビングは、食事するだけでなく、リハビリを兼ねて、歌やゲーム等も行っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、気が合う利用者同士で、過ごせる様な空間作りを心掛けている。利用者がリビングではなく、居室で過ごしたいというような時は、自由に過ごして頂くよう、声かけをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅にいた時と同じ様な空間又は感覚で過ごして頂けるような環境を創る為に、居室には使い慣れた家具、写真など馴染みの物を持参して頂くことを入居時、または入居相談時に本人、又はご家族に勧めている。	居室は、エアコン・照明器具・ベッド・カーテンが完備されており、入居時には使い慣れた家具や思い出の品を持ち込んで頂き、自宅に近い空間の中で生活できるよう、相談しながら、その方にとって馴染みの物を持ち込んで頂いています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、利用者が安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるよう、また認知症進行の緩和にもなるような構造にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム ちゃばしら

作成日

平成30年 12月 7日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災、地震等への対応だけではなく、水害、豪雨、台風、大雪等近年発生している異常気象による自然災害への対策の徹底。	どのような災害に対しても、全職員が落ち着いて対応出来るよう徹底。災害に対する自助努力意識の向上。	災害時マニュアルの周知徹底。管理職が中心となり外部の災害研修等に参加し、その後に事業所内で訓練、研修、情報共有等を行う。	現在進行中～平成30年度中
1	13	職員の職場定着率が高く、それに伴い職員一人一人の勤続年数も長い。それが故に提供するサービスが漫然化する可能性がある。	職員のスキルアップ、モチベーション向上。一部の職員だけでなく、全ての職員が向上心を持ち、研修等に積極的に参加する意欲が湧くような職場環境作り。	キャリアパス、職能資格規定等、人事評価に関する規定類等の周知徹底。職場環境整備の為の助成金の積極的、有効的活用。	現在進行中～平成30年度中
3	19	利用者の急変時、体調不良時等に関して、家族と共に本人を支援する。	利用者の急変時、体調不良時等は、その状況に応じて、家族に積極的に支援を依頼する。	日頃から家族と、利用者の状態等について連絡を密にする等、連携体制を確立する。	現在進行中～平成30年度中

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。